

Exciting108 の進捗状況

新中期計画「Exciting108」

インターネットを始めとするITの急速な発展により、ビジネスのスピードが劇的に速まり、価値あるものとそうでないものを速やかに見極めることが可能となり、今や本物だけしか生き残れない時代へ突入しています。当社も、改めて自社の特徴と強みを明確にさせ、その専門性をより強めていくことで、21世紀においても企業価値を高めていきたいと考えております。このような環境変化に対応していくため、当社では「Exciting Companyの実現と企業価値の拡大」を目標に掲げ、2004年3月期を最終年度とする新中期計画「Exciting108」を2000年4月より展開しております。

新中期計画「Exciting108」の進捗状況

この新中期計画「Exciting108」では数値目標を設定しておりますが、当期の実績は以下のようになっております。

重点分野の売上高構成と伸び率

通信分野においては、携帯電話を中心とした旺盛な需要により、売上高が大幅に伸長しました。一方、記録分野は、この分野の主要な製品であるHDD用ヘッドが、技術的な問題からマーケットシェアを落とし、売上高が減少しました。今後は、早急に開発技術体制の立て直しを行い、得意先の要求、信頼に応えられる体制にまいります。

	2001年3月期 実績		2004年3月期 目標	
	構成比	前年比伸び率	構成比	年平均伸び率
通信分野	14%	30%	20%	25%
記録分野	41%	-7%	45%	10%

設備投資額 (全体)

	2001年3月期 実績	中期累計 目標
設備投資額	994億52百万円	3,500億円

収益性/資本効率

当期の収益性につきましては、一般電子部品で増産効果やコストダウンの努力により改善しましたが、歩留り悪化のHDD用ヘッドを中心とする記録デバイス製品とCD-Rの売価下落の影響を受け営業赤字になった記録メディア・システムズ部門が全体の収益を悪化させました。

今後は、これらの問題に対して、HDD用ヘッドの開発技術体制の立て直しや記録メディア製品の製造拠点の統廃合効果を実現し、収益の改善を図ってまいります。

	2001年3月期 実績	2004年3月期 目標
営業利益率	8.2%	13.0%
ROE	7.3%	12.0%
TVA	-1.4%	3.0%
総資産回転率	0.9回転	1回転以上

- 注記: 1. TVAとは、資本コストという株主が期待するリターンをハードルと考え、これに対して投下資本利益率がどうであったかを判断する指標です。また、投下資本利益率の算出は、利払前税後利益をベースに行っております。なお、標記TVAの前提となる資本コストは、今回8%で見えております。
2. 営業利益率は、売上高と売上高から売上原価及び特定の無形固定資産償却費を含まない販売費及び一般管理費を差し引いて求められる営業利益により算出されます。